



## 平成26年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年1月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東・札・福  
 コード番号 9601 URL <http://www.shochiku.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 井手 良樹 TEL 03-5550-1699  
 四半期報告書提出予定日 平成26年1月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年2月期第3四半期の連結業績（平成25年3月1日～平成25年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第3四半期	66,953	14.7	6,867	184.7	5,299	323.5	3,240	188.0
25年2月期第3四半期	58,361	4.7	2,411	—	1,251	—	1,124	—

(注) 包括利益 26年2月期第3四半期 5,513百万円 (762.5%) 25年2月期第3四半期 639百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第3四半期	23.58	—
25年2月期第3四半期	8.19	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第3四半期	203,764	71,405	35.0	519.06
25年2月期	203,026	66,240	32.6	481.92

(参考) 自己資本 26年2月期第3四半期 71,363百万円 25年2月期 66,200百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	0.00	—	3.00	3.00
26年2月期	—	0.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成26年2月期の連結業績予想（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	91,100	15.9	7,160	133.5	5,460	256.9	3,310	230.7	24.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年2月期3Q	139,378,578株	25年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	26年2月期3Q	1,892,027株	25年2月期	2,009,855株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年2月期3Q	137,429,353株	25年2月期3Q	137,383,091株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、輸出の持ち直し、雇用情勢の改善、企業による設備投資の増加、デフレ状況の緩和等により緩やかに景気回復へ向かう一方、欧州の財政問題や新興国経済停滞等、依然不透明な状況のまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高66,953百万円(前年同期比14.7%増)、営業利益6,867百万円(前年同期比184.7%増)、経常利益5,299百万円(前年同期比323.5%増)となり、特別損失59百万円を計上し、四半期純利益は3,240百万円(前年同期比188.0%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## (映像関連事業)

映像関連事業におきましては、配給は、「ひまわりと子犬の7日間」「人類資金」は厳しい結果となりましたが、ゴールデンウィークに公開した「舟を編む」は作品評価も高く、堅調に推移しました。また、若年層の強い支持を得た「クロユリ団地」とシニア層に支持された歴史大作「終戦のエンペラー」はヒット作品となりました。その他、ODS(非映画デジタルコンテンツ)作品として「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章・第七章」「機動戦士ガンダムUC episode6」を公開し高稼働しました。

興行は、「風立ちぬ」「モンスターズ・ユニバーシティ」「真夏の方程式」「そして父になる」等をはじめ、邦画、洋画、アニメーション、ODS等、幅広いラインナップを提供しました。

テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売等は堅調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は33,775百万円(前年同期比1.3%減)、セグメント利益は865百万円(同44.4%減)となりました。

## (演劇事業)

演劇事業におきましては、歌舞伎座は、4月に新開場して一年間に亘る柿茸落興行が始まり、当代最高の俳優たちによる豪華な舞台がお客様を魅了して大盛況を続けました。4～6月の3ヶ月は三部制興行が賑わい、7月からは若手花形俳優中心の舞台が評判を呼びました。「芸術祭十月大歌舞伎」では通し狂言「義経千本桜」が平成25年度(第68回)文化庁芸術祭賞演劇部門の大賞を受賞し、11月には豪華顔ぶれによる「吉例顔見世大歌舞伎」が話題を集めるなど毎月充実した舞台を繰り広げました。

新橋演舞場は、歌舞伎座の新開場に伴い、本来の一般演劇中心の劇場として、「滝沢演舞城2013」や里見浩太朗との共演による「舟木一夫特別公演」、藤山直美主演「さくら橋」、山田洋次が演出する「さらば八月の大地」などが評判を呼びました。

大阪松竹座は、3月・8月は関西ジャニーズJr.公演が堅調に推移し、4月はOSK日本歌劇団が「レビュー春のおどり」で劇団91年目に入りました。恒例の「七月大歌舞伎」は新たな演目で魅了しました。「十月花形歌舞伎」では通し狂言「夏祭浪花鑑」が平成25年度(第68回)文化庁芸術祭賞演劇部門の優秀賞を受賞しました。

南座は、3月の「松竹新喜劇」は若手中心の上演で新たな動員に繋げ、3～4月の「歌舞伎ミュージアム」は舞台機構をお客様に実体験していただき歌舞伎の裾野を広げる取り組みとなりました。「五月花形歌舞伎」では復活狂言「鎌鼬」、夜の部の「伊達の十役」が好評を博し収益に貢献し、坂東玉三郎主演・演出の「アマテラス」が話題を呼びました。

その他の松竹公演は、ルテアトル銀座では市川海老蔵らによる「三月花形歌舞伎」、サンシャイン劇場では7月に「熱海殺人事件」が盛況となりました。三越劇場では6月に新派の名作「新釈 金色夜叉」が高い評価を得ました。巡業、シネマ歌舞伎、METライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。

歌舞伎座ギャラリーは、4月に歌舞伎座タワー5階に伝統文化の普及・世界への発信を目的とした文化施設「歌舞伎座ギャラリー」がオープンし、開場以来、日本全国から多くの来場者を集めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は22,496百万円(前年同期比50.9%増)、セグメント利益は5,154百万円(前年同期はセグメント損失172百万円)となりました。

## (不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産賃貸は、東劇ビル、築地松竹ビル、新宿松竹会館、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、有楽町センタービル(有楽町マリオン)、松竹倶楽部ビルが順調に推移し、安定収入に貢献しました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、計画通りの利益を確保しました。歌舞伎座タワーのリーシングにつきましては、フロア分割賃貸の実施等、テナントニーズを分析し更なる営業に注力した結果、複数のテナントの誘致に至りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,481百万円(前年同期比24.3%増)、セグメント利益は2,235百万円(同17.2%減)となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品は、コアファンを有するアニメ「劇場版 銀魂 完結篇 万事屋よ永遠なれ」「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章」「機動戦士ガンダムUC episode6」等が好成績で、実写邦画では「舟を編む」「そして父になる」等が好評を得ました。

イベント事業は、東京・大阪・京都で実施した「アルプスの少女ハイジとスイス展」では通常の催事企画販売に加え、会場図録等の自社で開発したオリジナル商品も販売しました。4月に新開場した歌舞伎座の賑わいが「松竹歌舞伎屋本舗」をはじめ歌舞伎関連物販の活況に繋がり収益に貢献しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,200百万円（前年同期比4.8%増）、セグメント利益は533百万円（同67.9%増）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ738百万円増加し、203,764百万円となりました。これは主に有価証券及び投資有価証券が増加したものの、現金及び預金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,427百万円減少し、132,359百万円となりました。これは主に長期借入金（責任財産限定）が増加したものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5,165百万円増加し、71,405百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成25年10月11日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想からの変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,196,343	14,332,401
現金及び預金(責任財産限定対象)	6,491,031	9,845,246
信託預金(責任財産限定対象)	3,349,428	3,911,412
受取手形及び売掛金	6,497,384	6,025,093
有価証券	300,000	3,800,000
商品及び製品	1,466,690	1,651,905
仕掛品	1,158,510	1,852,692
原材料及び貯蔵品	90,144	84,387
その他	5,118,626	3,460,891
貸倒引当金	△19,688	△15,184
流動資産合計	44,648,471	44,948,848
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,639,667	19,998,545
信託建物(責任財産限定対象)(純額)	35,233,414	34,285,950
設備(純額)	13,243,792	12,233,462
土地	23,610,620	23,617,724
信託土地(責任財産限定対象)	18,751,834	18,751,834
その他(純額)	5,689,336	5,693,050
有形固定資産合計	117,168,665	114,580,568
無形固定資産		
のれん	4,523	2,380
その他	2,602,016	2,969,925
無形固定資産合計	2,606,540	2,972,306
投資その他の資産		
投資有価証券	14,450,276	17,957,119
長期前払費用(責任財産限定対象)	14,371,257	14,163,757
その他	9,965,166	9,345,014
貸倒引当金	△186,425	△202,834
投資その他の資産合計	38,600,274	41,263,056
固定資産合計	158,375,479	158,815,932
繰延資産	2,644	—
資産合計	203,026,596	203,764,780

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,386,860	5,717,214
短期借入金	6,100,000	6,047,500
1年内返済予定の長期借入金	4,734,871	6,229,514
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	27,895,000	700,000
未払法人税等	332,289	1,497,387
賞与引当金	392,600	231,155
その他	8,303,526	10,342,217
流動負債合計	54,145,149	30,764,989
固定負債		
社債	1,100,000	1,100,000
社債(責任財産限定)	10,000,000	10,000,000
長期借入金	31,167,750	30,940,530
長期借入金(責任財産限定)	25,000,000	43,650,000
退職給付引当金	1,593,865	1,657,424
役員退職慰労引当金	664,886	676,257
資産除去債務	1,313,165	1,333,332
その他	11,801,630	12,236,826
固定負債合計	82,641,297	101,594,372
負債合計	136,786,447	132,359,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,066,722	30,135,480
利益剰余金	2,330,722	5,156,381
自己株式	△1,288,612	△1,291,185
株主資本合計	64,127,489	67,019,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,073,268	4,344,458
その他の包括利益累計額合計	2,073,268	4,344,458
少数株主持分	39,391	41,628
純資産合計	66,240,149	71,405,419
負債純資産合計	203,026,596	203,764,780

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
売上高	58,361,568	66,953,064
売上原価	34,031,486	36,798,585
売上総利益	24,330,082	30,154,478
販売費及び一般管理費	21,918,283	23,287,026
営業利益	2,411,798	6,867,451
営業外収益		
受取利息	42,261	42,243
受取配当金	127,167	168,489
負ののれん償却額	3,423	3,423
還付消費税等	—	95,521
その他	103,271	94,466
営業外収益合計	276,124	404,144
営業外費用		
支払利息	972,728	1,313,105
借入手数料	108,283	381,006
持分法による投資損失	1,672	17,384
その他	353,817	260,197
営業外費用合計	1,436,503	1,971,694
経常利益	1,251,420	5,299,901
特別利益		
固定資産売却益	53,838	—
特別利益合計	53,838	—
特別損失		
固定資産除却損	9,438	59,478
投資有価証券売却損	6,550	—
投資有価証券評価損	9,260	—
特別損失合計	25,248	59,478
税金等調整前四半期純利益	1,280,010	5,240,423
法人税、住民税及び事業税	313,952	1,458,393
法人税等調整額	△134,856	539,710
法人税等合計	179,096	1,998,104
少数株主損益調整前四半期純利益	1,100,914	3,242,318
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△24,064	2,236
四半期純利益	1,124,978	3,240,082

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,100,914	3,242,318
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△456,780	2,267,950
持分法適用会社に対する持分相当額	△4,904	3,239
その他の包括利益合計	△461,685	2,271,189
四半期包括利益	639,229	5,513,508
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	663,352	5,511,272
少数株主に係る四半期包括利益	△24,123	2,236

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	34,228,123	14,910,469	5,216,096	4,006,879	58,361,568	—	58,361,568
セグメント間の内部売上高又は振替高	38,308	83,254	1,278,791	2,750,139	4,150,494	△4,150,494	—
計	34,266,432	14,993,724	6,494,888	6,757,019	62,512,063	△4,150,494	58,361,568
セグメント利益又は損失(△)	1,556,032	△172,835	2,698,544	317,655	4,399,396	△1,987,597	2,411,798

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,987,597千円には、セグメント間取引消去18,562千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,006,160千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	33,775,612	22,496,087	6,481,003	4,200,361	66,953,064	—	66,953,064
セグメント間の内部売上高又は振替高	81,617	109,167	1,266,826	3,272,394	4,730,005	△4,730,005	—
計	33,857,229	22,605,254	7,747,829	7,472,756	71,683,069	△4,730,005	66,953,064
セグメント利益	865,837	5,154,225	2,235,675	533,446	8,789,184	△1,921,732	6,867,451

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△1,921,732千円には、セグメント間取引消去25,277千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,947,010千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。